

オリンピックを開催できる喜びを

私は、昭和39（1964）年4月10日生まれである。

新幹線開業、東京オリンピック開催の年である。

当時のオリンピックは当然知らないが、札幌オリンピックと長野オリンピックはよく覚えている。

4度も（戦前の未開催を含めると5回）オリンピックが行われることは本当にすごいことだと感じている。

以前、自分が生まれた日の新聞の第1面のコピー（読売新聞）を書店で購入した。

この新聞には、東京オリンピックを迎える連載のコラムがあり、当日は、「アジアが誇る大祭典 たよりにされる兄貴分・日本」という内容である。一番気に入った内容は、アジアからの留学生の声として、「オリンピック日本の喜びだけでない、アジアの喜びだ」である。アジア各国の若者たちも日本ではなく、アジアのオリンピックとして喜んでいただようだ。

さて、今日の東京オリンピックに関わる話題はどうか？

メディアの発達で、当時とはちがった話題もあるのだろうが、喜びより暗い話題が多いことが気になる。アジアも発展し、オリンピック開催がアジアでいうと多くの国で開催が可能であり、当時に比べちがったものになっているのかもしれない。

万博も同じであるが、この世界の祭典を行うことができる主旨を再度確認し、当時の喜びを思いだし、開催することに集中し、成功することを祈るものである。

バドミントンの奥原望選手はケガに苦しみ、多くの方への感謝から、試合前コートに入る前「このコートに立てることへ感謝」つぶやくようだ。

改めてすべての国民が謙虚な気持ちで準備、開催を行いたいものである。



明星大学正門にある東京オリンピック掲揚塔（本物）